

福島町定住促進・少子化対策プロジェクト

# 福島町まちづくり町民フォーラム

(平成24年度第3回)



と き：9月3日（月）午後6時～

ところ：福祉センター 音楽室

総務課企画グループ

# 会 議 次 第

1. 事務局あいさつ
2. 住環境の整備及び地域の資源を活かした機能分担について、具体的取り組み策のグループ提案の作成（資料1）
3. その他（今後の予定）

## 平成24年度 第3回町民フォーラム検討課題

**【若者定住促進及び少子化対策に関する課題】****1. 若者定住促進の課題**

## ア 雇用・就労の場づくり

本町は、人口減少が進み、まちの魅力も輝きを失いつつあります。雇用環境が不十分で、町内には若者や子育て中の女性等が希望する職場、職種も少なく、町外に安定した職を求めて転出しています。町外からの若者等の転入者も期待しにくい状況にあります。

このため、若者や子育て中の女性等の雇用・就労の場の確保に向けて、企業誘致や若者等の起業家育成、起業に向けた環境づくり（地場資源を活用した新たな産業・産品づくり等）の推進による、新たな職場づくりが課題となっています。

## イ 独自性のある生活の魅力の向上

雇用・就労の場づくりと共に、若い男女が出会える場や機会づくりも当面の課題です。

若者は町内で、勉学に励むとともに、生活の楽しさや豊かさを実感できるカフェやファーストフード等の手軽な飲食の場や、安定した職を持ちカラオケ等の娯楽や遊び、スポーツやイベントなど多様な機会を通じて異性との出会い、語らいや交流を楽しめる場などの魅力も必要と考えています。

また、雇用・就労の場の確保と同時に、単身者や若者世帯の定住促進に向けた住宅の確保の課題となっています。

日常の生活環境の充実、若者が憩い集える居場所など、「学び」、「遊び」、「働く」の連環した生活環境充実のため、生活者向けサービスの集積が課題です。

**2. 少子化対策の課題**

本町では、年々出生数が減少し少子化が進むとともに、子どもを安心して産み育てる環境も不十分になってきています。子育てサポートの充実や小児科、産婦人科等の専門医療や緊急時等の不安解消に向けた仕組みづくりが課題となっています。

子どもの減少と同時に、子ども達が安心して遊ぶ場も減少しています。子どもを中心に親子で気軽に集い遊び学べる場、乳幼児の保育環境（一時保育や一時預かり、延長保育等）の充実により、子どもがいても共働きできる環境づくりも課題です。

**【第3回町民フォーラムでの検討課題】****IV 住環境の整備**

## 1. 住環境の整備

- ①若者定住住宅の整備
- ②コミュニティバス等の検討
- ③インターネット環境の高度化
- ④福島町情報バンクの設置
- ⑤街の環境美化

## 2. 医療環境の整備

- ①専門医療機関への通院支援等
- ②緊急輸送手段の構築

**V 地域の資源を活かした機能分担**

1. 福島地区の活性化
2. 吉岡地区の活性化

**【目指すべき方向】****IV 住環境の整備**

## 1. 住環境の整備

単身者や若者世帯の住宅が不足しており、他町から若者が移住したくとも、住宅がないという意見があります。他方町内には、100件近くの空き家があるとも言われます。これら空き家や耕作放棄地の所有者の協力を得て利活用を可能にすることで町の景観が向上し魅力も高まります。あわせて、交通利便性強化、IT環境(情報通信網)等のインフラ整備を進めることにより、若者定住につながるものと期待されます。

## 2. 医療環境の整備

女性が安心して身近に相談できる産婦人科、小児科など夜間や緊急に対応できる体制づくりを進めることが、本町で安心して子どもを産み育てるためのスタートになります。

また、地域住民が乳幼児保育、学童クラブ等の子育て支援施設の運営に参加することで、出産をひかえる女性等、誰でも気軽に利用を可能にし、小児医療等への不安を和らげ、少子化対策として効果的と期待されます。

**V 地域の資源を活かした機能分担**

定住促進及び少子化対策の推進には、雇用・就労の機会や交流機会の拡大、創出を図り、物や情報を産みだす環境の整備など、町内の公有遊休施設(地)の利活用や、稼働率の低い施設の多機能化などと、民間に協力をもて民間施設等、地区において潜在化している資源を顕在化させる必要があります。

そこで、福島地区、吉岡地区の役割分担を明確化したうえで、地区間の連携強化により町の活力を高めていくことが必要です。

## 1. 福島地区の活性化

商業・公共・公益ゾーンとして市街地の面的整備を進める。

## 2. 吉岡地区の活性化

元気な福島町を支える人づくりの環境整備を進める。

#### IV 住環境の整備

##### 【課題：1. 住環境の整備】

個別テーマ	内 容	取り組み案	重要度・緊急度	住民・事業者等の役割	備 考
①若者定住住宅の整備	若者世帯や若者が一人暮らしのできる住宅の確保・提供方法の検討を進める。(単身者向けマンション、世帯向けマンション整備等)				
②コミュニティバス等の検討	バス等の交通利便性の向上と多様な運行を可能とするコミュニティバス等の運行を検討する。				
③インターネット環境の高度化	インターネットや携帯電話の急速な普及と機能の高度化は生活の利便性や産業の生産性を著しく飛躍させるとともに、情報通信基盤の整備状況によっては地域間格差が広がることから、光ケーブル等インターネット環境の向上に努める。				
④福島町情報バンクの設置	就職・求人情報、空き家情報等の一元化を図り、多様化する町民ニーズ(働く、学ぶ、住まう、食べる、寝る、遊ぶ等)に直結する第一次的情報の受発信の一元化を進める。				
⑤街の環境美化	道路、街灯等の整備による安心・安全の確保と街の環境美化を進める。				

##### 【課題：2. 医療環境の整備】

①専門医療機関への通院等の支援	産婦人科、小児科等の専門医療機関への通院等の仕組みづくりと、緊急対応できる医療体制づくり(妊産婦の交通手段の確保等)。 また、消防署と連動した夜間等の緊急輸送手段の構築を検討する。				
-----------------	---	--	--	--	--

V 地域の資源を活かした機能分担

【課題：1. 福島地区の活性化】

<p>① 福島地区の活性化： 商業・公共・公益ゾーンとして市街地の面的整備</p>	<p>町の拠点として福島地区に集積された地域資源（商業、公共施設）をコアに、新たに若者や女性によるコミュニティビジネスの起業による「雇用・就労・交流の場」づくりに取り組み、多様な消費生活関連サービスの提供や自由時間活動の場として、横綱街道を軸にした町のブランドづくりと個性ある面的整備（モール化）を進める。</p> <p>◎ホスピタリティを理念とした商店街づくりを進め横綱ロードの活性化を図る。</p> <p>◎既存商店等と遊休資源活用のコラボレーションによる「公設・民営市場」の開設による消費生活関連サービス向上に向けて、若手起業家による3坪ショップ(カフェ、B級グルメ、惣菜店等)と特産品販売、安らぎ・交流スペース等の整備等の機能の再集積を図る。</p>				
---	---	--	--	--	--

【課題：2. 吉岡地区の活性化】

<p>① 吉岡地区の活性化： 元気な福島町を支える人づくりの環境整備</p>	<p>学校等の遊休地（施設）、吉岡温泉等の公共施設を活用し、健康・福祉・教育・文化をコアにして、子育てや女性を中心に、町民主体のサービス拠点（業）とした環境整備を進める。</p>				
--	---	--	--	--	--

## 福島町まちづくり合同会議結果 (平成 24 年度第 2 回)

開催日時：平成 24 年 7 月 30 日（月） 午後 6 時～午後 8 時 40 分

場 所：福祉センター音楽室

昨年度の提言書に基づき「子どもや若者の居場所づくり」、「学びと実業の連動」について、町民フォーラムがグループ毎に取組み（案）を検討した結果について、推進会議委員の方々の協力を得て再度検討を行い、グループ毎に発表されたものを、事務局において取りまとめたものです。

なお、【備考】欄は今後の検討課題等です。

### ◎子どもや若者の居場所づくり

#### ・子どもの居場所づくり

子どもの居場所（学び、学習、交流、遊び）が限定的になり、グループ（集団）活動の場も減少し、社会性を育むうえでの不安も提起されています。

子どもの居場所を整備することにより、子どものコミュニティづくりを進め、子どもの笑顔が街中にあふれることにより、安心して子どもを産み育てる機運が高まることが期待できます。

同時に、子育て中の母親の不安も減り、母親がボランティア活動やNPO活動に参加する可能性も広がり、多様な活動が創出されることが期待されます。

#### ・若者の居場所・交流の場づくり

町の魅力づくりに向け、中高校生、若者の居場所（学び、交流、出会い、遊びの場）づくりを進めることで町の個性を強化し、近隣町との差別化が進み、若者等の流入が期待できます。

市街地に創出される飲食の場（フードコート等）で出会い、交流を楽しむとともに、活動の場として、学校施設などの遊休施設を利活用し、総合型地域スポーツクラブ等の仕組みを活用した生涯学習、生涯スポーツを通じて、多くの仲間たちとの絆や、地域の子ども達、中高年齢者との触れ合いを深め、若者世代が街中で自由時間活動を楽しむ、新たな地域文化の創出が期待されます。

### ◎「学びと実業」の連動

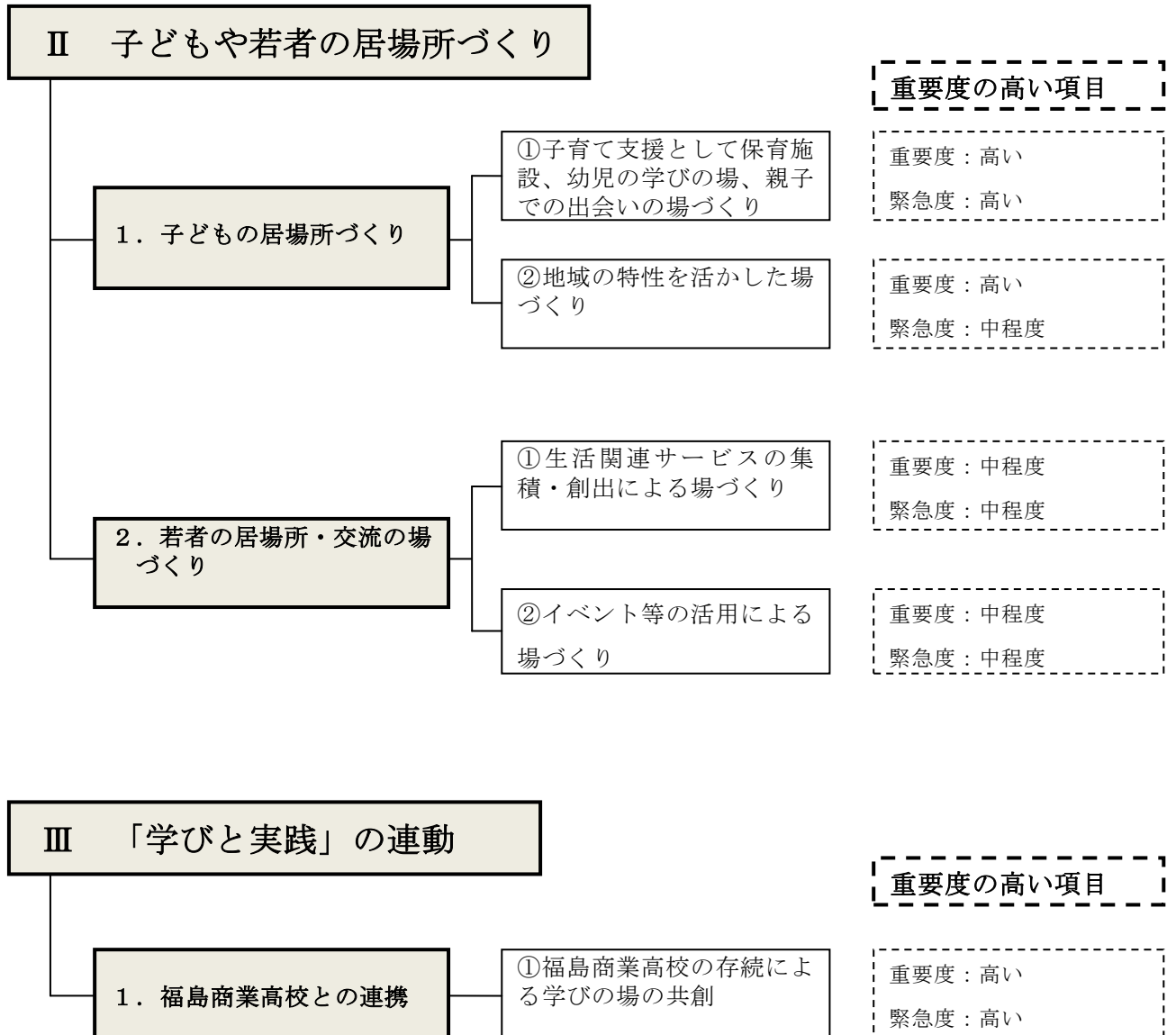
#### ・福島商業高校の存続

本町には、町民のシンボルの一つでもある道立福島商業高等学校があり、本町の教育に大きな役割を果たしてきています。しかし、現在生徒数の減少から存続の危機にあります。産業の発展や生活・文化の高度化に向けて教育は無くしてはならないものです。

商業高校として持つ機能と時代の求めるニーズを融合させるよう、新たな役割を認識し学校と町と町民が一体となってカリキュラムを提供することにより、渡島地域での役割の拡大が期待されます。

(町民フォーラム提言書H24.2より)

## 【施策の体系（仮）】



## Ⅱ 子どもや若者の居場所づくり

### 1. 子どもの居場所づくり

#### ①子育て支援として保育施設、幼児の学びの場、親子での出会いの場づくり

(重要度・緊急度：各グループ1位)

保育所・幼稚園の充実、子どもの一時保育、託児所付き施設、育児サロン、学習(習い事)の場、遊び場づくりを進める。

#### 【具体的取り組み】

##### ◎子どもの居場所、親子での出会い、交流・学びの場が連動した施設整備

- ・いつでも気軽に子どもを預けられる一時保育や託児所、育児サロンと母親達が団欒、交流・息抜きできるカフェが一体となった施設の整備。  
(「よみ聞かせの会」や「ゆりっこ広場」などの活動をするボランティアとの連携や「世話好き・世話やき隊」の活動の拡充)
- ・廃校等を利用して、子どもダンスクラブなど、おしゃれな習い事ができる場を整備する。若い親のニーズに合わせ親子で楽しめる場をつくることにより、つきそい等のお母さん方の交流の場としても期待できる。

##### ◎子ども達の遊び場の整備

- ・小学校の子ども達の下校後の遊び場を整備する。  
学校に放課後地域の人(シニア世代等)が来て、遊びや多様なスポーツ(現在は選択肢が少ない)等、得意なことを子どもたちに教えることのできる場やシニア世代に休日等にボランティアを頼み、子どもを預けられる場を整備する。
- ・福祉センターのインターネット環境のあるエリアに子どもが集まっているので、インターネット環境の整った場を拡充する。
- ・新緑公園の遊具を充実する。  
新緑公園には、子どもたちやお母さんたちが集まっているが遊具等が少ない。
- ・身近な街区公園を整備する。  
赤レンガ(イルカ公園)には子どもたちが集まって遊んでいる。小学生でも低学年、高学年等、年齢によって遊び方が違うので、現状をよく確認する必要もある。
- ・町の環境を活かすため、森林公園の再整備や自然環境の中で遊べる場所を整備する。  
森林公園のキャンプ場を再整備することで、町内はもとより町外からの利用者も期待ができる。キャンピングカーがブームであり、海水浴場が閉鎖(午後5:00迄)された後の滞在場所として、電源設備、炊事場をも整備しオートキャンプ場(有料)として一泊してもらおう。
- ・町有林で、ツリーハウス等で遊び方を教える。  
今の子どもたちは屋外での遊び方を知らないと思われるので、指導は町内の経験者にお願いする。



- ・農家の田植え体験（交流・歴史）の拡充。

◎子育て支援策のPRを重点的に行う。

- ・子育て支援策についてのパンフレットを作成しPRを強力に行う。

福島町には子育て支援のメニューはそろっているが、母親にならないと興味をもてないものや、プログラム自体を知らない母親がいる。内容の拡充も必要だが、今あるメニューを多様な方法で積極的にPRし、多くの親子に活用してもらうことが必要である。また、町民や町外の人にも福島町の子育て支援策（出産祝い金等もある）を知ってもらうために、支援策を集約した冊子を作成し集客施設等での配布や、バス停や集客施設のトイレ等、人の集まる場所にポスターを張るなどのPRを行う。

- ・子どもの遊び場マップを作成する。

町外から来た人は、遊び場がどこにあるかを知らない人がいる。

◎施設の運営管理に住民参加を促進する。

- ・施設の管理等をシニア組織に委託する。

施設の運営管理、公園の遊具の管理や遊びの見守りなどの委託先として、シニア組織（シルバー人材センターや高齢者事業団、NPO等）を立ち上げ高齢者に協力をしてもらう。シルバー人材センター（雪かきや木の選定なども可能）の活動等で就労した人たちに報償費を払うのか、ポイント制でポイントがたまれば、表彰などのインセンティブを提供するなどの方策を検討する。

また、「ゆりっこ広場」等の活動グループ（女性ボランティア等）や「世話好き・世話やき隊」やとの連携を検討する。

- ・指導や支援活動をする人財（材）の確保

町内の経験者や技能を有する人を広く募り「町民人財バンク（仮称）」に登録し、活動に参加・協力をしてもらう。

**【住民・事業者の役割】**

- ・活動への積極参加

**【備考】**

- ・町は緑化ということで公園等の芝生化を進めているが、雨の後は芝の維持管理や水分がたまり遊びにくいなどの短所もあり、砂のグラウンドであればすぐに子どもたちの遊びの場として利用できるし、維持管理費も削減できるという意見もある。

- ・街区公園についてはアドプトプログラムの導入を検討する。

アドプトプログラム：ボランティア活動に意欲を持つ住民や企業にまちづくりに参加してもらい、美しい生活環境や快適な空間をつくるシステムで、この場合は街区公園の整備までは行政が行い、維持管理は地域の住民が責任を持って行うというシステムです。

- ・田植え体験等を活用した多世代間交流の仕組みの検討

## ②地域の特性を活かした場づくり

(重要度・緊急度：3 グループ第2位)

福島地区や吉岡地区等の市街地が持つ特性を活かして、学校施設などの遊休施設を活用し、総合型地域スポーツクラブ等の仕組みを活用し、スポーツはもちろん、地域子育て支援センター、ファミリーサポートセンター 学童クラブ、文化さらには婚活（若者の異性との出会い）までを含め運営するなど、新たな地域文化の創出を進める。（地域間の相互交流と域内交流の促進）

### 【具体的取り組み】

◎アウトドア（海、山の活用）を通して学び、遊び、体力をつくる場を整える。

- ・初心者に向けてキャンプ、野鳥観察、アスレチック、山歩き等のアウトドアを教えてくれる場を拡充する（遊び方から教えていく必要がある）。吉岡で1学期のキッズスクールをやっている（小学生と幼稚園児）⇒いまやっていることをもっと広める。

- ・千軒小学校跡のグラウンドをキャンプ場として利用

廃校活用によるキャンプイベント等を年に1回ではなく、隔月とか、年に数回実施する。また、廃校を活用し福島町の環境を活かした、他市町村の小学校等との交流事業を復活させる。

例：町内巡りや漁協等と協力して岩部の自然観賞、スポーツ団体の協力を得てスキー体験等を組み入れる。

- ・年間を通して活動できる環境を整える。

幼児から児童・生徒までが成長過程に応じて年間（四季）を通しての活動できる環境づくりのため運営団体を作り指導からしてもらおう。⇒活動のコアになる人としてはボランティアとして「青い山脈（山歩集団）」や学校の先生に協力してもらおう。

◎複合施設の建設を検討する。

- ・現在ある体育館、福祉センターの老朽化と再建を念頭に、児童館・体育館・福祉センターの機能を一つにした複合施設の建設（町外からの交流人口の増加も期待できる）。

◎町の特性を活かしたイベントの実施

- ・町の自然というアナログ的な環境とDS（携帯用ゲーム機）などのデジタル的な子どもたちの遊び機器を使用したウォークラリーのような遊び的イベントを実施し、町の自然に接しながらの外遊びを体験してもらおう。

- ・街コンプロジェクトの実施

近隣町の若者にPRし、福島地区の商店街を中心に開催し、出会いの場をつくる。

函館地域まで参加を呼びかけ範囲を広げて街コンの開催を目指す。

本町には宿泊施設がないため、夜間でアルコールが入ると帰りの交通の便が課題となるが、昼間であれば横綱ビーチ等を活用すれば可能である。

例：海で街コンの開催

本町には宿泊施設がなく、夜間の婚活的イベントであれば、送迎等が課題となるが、昼間にビーチを活用し仕掛けに工夫さえすれば十分可能である（地域製品の提供等）。

### 【住民・事業者の役割】

### 【備考】

- ・学校跡地や空き教室等の利用の可否の現状把握  
廃校で活用できるのは、吉岡小学校（耐震化が必要）位であとは整備費が大きくかかるので小学校の空き教室の活用を検討する。
- ・岩部の自然観賞の実現に向けては、町民でさえ行ったことのある人は少ないのではないかと。子ども達には岩部から船に乗って矢越まで行って自然の素晴らしさを体験させたいと思うが漁協等をお願いするにしても簡単に実施できるものではない。年に数回のイベントとして実施することを検討する。
- ・岩部海岸については廃校より奥に福島町の水源地がある。自然は豊かであり海岸体験を検討している。福島県の支援活動をしている東京農大の教授と、同じ福島つながりで何かをしたいと考え、子どもたちの海岸体験を計画中である。（廃校は使えないのでキャンプを考えている）。
- ・街コンは全国的にブームになっており、交流・出会いの場として、福島町のPRにもなるが、プロデュース（仕掛け・演出の熟度）仕方で成否がわかるので、運営組織づくりが重要。

## 2. 若者の居場所・交流の場づくり

### ①生活関連サービスの集積・創出による場づくり

(重要度・緊急度：3グループ3位)

若者の求める、生活関連サービスを若者の参画を得て市街地に集積し、出会いや・交流のできる場を創出する。

#### 【具体的取り組み】

##### ◎歓談や交流が可能な環境の創出

- ・交流できる娯楽施設（ゲームセンター、カラオケボックス等）を整備する。  
トンネル記念館のスクリーンを利用して、定期的に映画を上映する。  
高校生等にニーズのあるカラオケのできる場をつくる。
- ・町内のスーパーに、買ったものをその場で食べられるコーナーを造る（コーナーを造る費用は町が補助を出す）。
- ・情報ステーションと交流の場が一体となった施設を整備（公設・民営市場等）する。  
情報ステーション的なものを建設し、若者にテナントとして貸与し起業してもらおう。  
機能としては、情報ステーションとして各種の情報受発信の場とチャレンジショップ的施設とし、テナントは、次世代の担い手育成の場、若者起業家の育成を主とする。  
例えば施設名は【4527（よこづな）】、場所は黒川商店、岡田屋旅館の周辺などとする。若者向けカフェ、衣料品店の出店。
- ・トンネル記念館駐車場を活用し、フリーマーケット的なことを定期的（毎月1回程度）に開催する。

##### ◎近隣町と連携した交流イベント等の実施。

- ・本町が核になり、4町の若者層に呼びかけ、4町で交流イベントそして開催することで、若者交流の輪を広げる。  
昨年商工会の青年部が松前町との合同でクリスマス会を実施した。4町商工会で、イベントの時期の関係で、婚活イベントが成立しなかった経緯はあるが4町の若者層に呼びかけ、協力して賑わいづくりから始める。
- ・企業間の若者の飲み会の開催（町内独自や4町連携で）。  
町内の異業種間での交流や、4町連携で異業種交流を実施することから、地域間交流の輪を広げる。
- ・かつてあった地域の祭りの復活や、空地などで祭り・イベント（町内での交流を図る）の開催により町民交流を促進する。場所によってイベント内容を変える。
- ・資格取得に繋がる場をつくる（かつて木古内の自動車学校が近隣町のとの出会い・交流の場になっていることを実感した）。

### 【住民・事業者の役割】

- ・空き施設等の提供（有料）、経営ノウハウの提供 等

### 【備考】

#### ★チャレンジショップ的、公設・民営市場について

- ・若者の交流の場と次世代を担う起業家育成、雇用就労の場の創出とが連動できるよう、仕組みについて検討する。
- ・高校生が黒米ライスバーガー等の商品開発もしているので、高校生にチャレンジショップ的にテナントとして利用してもらってはどうか。資金的には町や親など関係者が協力する出資の仕組みを検討（学びと実業の連動）する。
- ・新たな施設の建設はコストがかかるため、空き家等の利用を検討する。

#### ★映画上映、カラオケボックス等について

- ・映画上映は実行委員会を作って実施している例があり、運営団体（組織）を立ち上げればあれば可能。
- ・カラオケボックスについては、町内会などの団体がカラオケセットを持っており、借用させてもらい、町の施設等を利用してはとの意見もある。若者や家族など、誰もが気軽に楽しめる場として位置付けできるか検討する。

## ②イベント等の活用による場づくり

(重要度・緊急度：3グループ3位)

生涯学習、生涯スポーツの自由時間活動を通じて交流、親睦を深め、活動をコアにして、継続性あるイベント開催等を若者が企画・運営することで、出会いの場や機会を楽しみの場として創出することで、町づくりへの参加意識、定住意識を高める。

### 【具体的取り組み】

#### ◎アウトドア型イベントの実施

- ・ 町外の女性に募集をかけ、町内の独身男性との婚活イベントを行う。  
福島町の魅力を伝えられるような体験型イベント（福島町産の食材を使ったバーベキューや地引網体験など）を組み込んで実施する。一泊二日にして都会からの集客も検討する。
- ・ 山菜取りやスノートレッキングなど、町内の達人が教えるイベントを単発ではなく、頻繁に継続的に行う。このための運営団体を同時に育てていく。
- ・ 福島町でも開催経験のあるビアガーデンイベント（昼間、未成年でも参加できるイベントも）の開催
- ・ おしゃれなイメージのあるアウトドアイベントの開催（キャンプ会等）。  
PRは広域でスポーツ用品店等にチラシおかせてもらい、外から若者を呼ぶ。
- ・ 高校生主催のイベントを開催する（学校祭と町民祭の合同祭り等）。  
現在町内で実施しているイベントの企画に高校生の参画を得る。
- ・ 過去に開催されていた、福島のイカ祭りや、七夕祭り等を整備された海水浴場等を活用して新たな形で復活する。（海上運動会のようなものも検討する。）
- ・ 綱引きなど一時ブームになったようなニュースポーツ、ファミリースポーツの活用による地域おこしを検討する。

#### ◎異世代交流、故郷交流イベントの実施（参画意識の向上と継続的なイベントのキックアップづくり）。

- ・ 学校を利用した同窓会、学校対抗イベントを実施する。  
子どもから高齢者まで多世代間交流と、町民と旧町民の町への愛着心の高揚に繋がる。
- ・ 各産業団体等の青年部、青年女性部を中心とした合同イベントを開催する。  
各産業団体等にある青年部、青年女性部を中心とした合同イベントを開催し、若者の交流・連携意識を高め、まちづくりへの参加意欲につなげる。

#### ◎イベント企画等の場を通じた交流促進。

- ・ 飲食店にアンケートを置き、若者のニーズを把握。ニーズにあったイベントを開催し、若者にも協力（主催者側として）を募りながら行う。
- ・ 福島若者会議（100人会議のようなもの）を設置し、定期的に会合を重ねることで交流を促進する。

**【住民・事業者の役割】**

町民の積極参加

**【備考】**

- ・ イベントをシーズン化、継続性を持たせるための各種イベントの連動の仕組みづくりを検討する。
- ・ 町民運動会再度、幼児から高齢者までが参加する、各種ファミリースポーツ大会として、町民オリンピックのような形で一定期間継続して開催することなど、町民交流と健康づくり活動の両面から検討する。
- ・ 町民フォーラムや福島若者会議につながらないか？  
フォーラム等で、これまでにあったイベントを再度見直すとともに、参加してもらうための、広報や呼びかけの仕組みなどを検討する。また、主催する人の熱意（企画した人の喜びなど）を共有する環境づくり。

## Ⅲ 「学びと実践」の連動

### 1. 福島商業高校との連携

#### ①福島商業高校の存続

(重要度・緊急度：各グループ高い)

学校と町民の連携により、水産業・農林業・商業・観光業の専門家育成や生活関連小産業の創出に向けたカリキュラム提供等により、高校を卒業した若者の流出を防ぎ、町外からの福島商業高校への入学生等の増加を図る。

#### 【具体的取り組み】

##### ◎新たな学科等の設置

- ・商業科だけでは生徒募集が厳しいと思われ、漁業の町として水産科や進学コースとして普通科等の新しい学科を設置し選択肢を広げる。(水産科は担い手、普通科は進学向け)。
- ・高校生が求める職業を調査し、専門職に就けるような学科や科目を設ける(公務員進学科、美術、調理科など)。

##### ◎特色ある学校としてのイメージづくり(スクール・アイデンティティ戦略の実施)

- ・制服のデザインを特色あるものに変える。
- ・週に何度か給食を出すようにし、売店を設ける。
- ・学生寮をつくる(町外からの通学の不便解消等、大野農業は1年生の時は全員寮)下校後、寮生に向けた特別教室(塾のような形式)で、寮生のニーズに合わせて各種試験に対応する。
- ・公務員試験対策に力を入れ高校の目玉にする(専門学校に行く必要がない)。
- ・商業高校として得意分野、実践に役立つ資格取得支援の取組を強化する。  
公務員試験のための勉強機会や、商業分野の各種資格取得のための勉強機会の拡充に向けた仕組みづくり。
- ・学校の特色等を町のホームページ等で積極的にPRする。
- ・漁業部を発足させる。  
漁業の町に立地する高校の部活動として漁業部を発足してもらい、部活動の中で漁師さんの協力を得て、イカ釣り、魚釣り等の体験をさせてもらい、漁業に関心を持ってもらう。
- ・水産業、農林業の実践的な授業。学校見学会の開催⇒漁業の体験等
- ・システムエンジニアの育成  
高校には毎日パソコンに触れる機会があり、未来大学との連携の中で協力を得て、システムエンジニアへの勉強機会を拡充する。



**【住民・事業者の役割】**

学校の存続に向け、積極的な技能等の提供支援。

**【備 考】**

- ・町職員が専門職として協力できる部活動や、課外授業の検討。